

概要

いま日本には約400万社存在する。これまで日本を支えてきた大企業だけでなく、既存の環境でできなかった働き方や生き方を求めて中には企業をする人も増え、このようなベンチャー企業が多く存在し、企業の在り方が多様化されている。いまではこうした新しく起業する新事業者に向けて、ベンチャーサポートを行う企業や支援が多く存在するが、起業後の淘汰も厳しく、企業の在り方が多様化する反面、生き残りの厳しい状況といえる。先ほどの述べた大企業もいつ倒産や経営危機に陥ってしまうか予測できない状態にあり、入れ代わり立ち代わりの激しい社会状況といえる。

本稿ではこのような社会状況において、これだけの企業が存在し混在するなかでどうすれば生き残り続け、めまぐるしい環境の変化に対応しながら戦略を図ることができるのかというところに基づいて、本当に強い企業の在り方からどういった企業や組織が必要なのか論じる。

その中で自分は劣勢な時ほど賭けに出ることができるかという「イノベーション」が大事であると考え、わかりやすい身近なモノから「3M」という企業の事例紹介などを用いて分析した。

本論文の構成は以下のようになっている。まず初めに問いについて述べたのち、先行研究ではイノベーションに関係のある資料や文献を整理し、仮説ではイノベーションのために何が必要かそして企業としてどうすればイノベーションを起こすことができるのかについて述べる。つぎに出てきた仮説を楽天とアマゾンの二社をもとに「転職者」に焦点を当てて検証し、考察と結論を述べ、参考文献を表記する。